

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592200028		
法人名	社会福祉法人高千穂天寿会		
事業所名	グループホーム寿久の里		
所在地	宮崎県日之影町大字七折1850-1		
自己評価作成日	2018年11月2日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4592200028-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々の機能維持と向上のために、掃除の手伝いや、料理の下ごしらえ等生活リハビリを心掛けている。また、季節を感じていただくために、野菜植えや収穫の手伝いや見学、旬の食材を利用した行事食等を計画的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、特別養護老人ホームや養護老人ホームも運営しており、働きやすい環境整備や資質向上のための研修会の開催、資格取得のための支援を行っている。法人の理念である「真心」を常にケアの指針とし、利用者の安心に繋がるように横にいてゆっくり丁寧に接するよう取り組んでいる。ボランティアの慰問や敬老会等への参加、地域の福祉祭り等への利用者の参加もあり、地域との関係を構築するよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、それぞれに自分らしい生活が送れるように、計画を立て、法人の理念である真心を込めたサービスが提供できるよう常に心がけている。	法人と共有する理念である「真心」をケアの指針とし、常に利用者に寄り添う気持ちを大切にしている。また、理念についての勉強会を重ねることで、意識向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に慰問にきていただき一緒にお茶のみをしたり夏祭りに地域の方々を招待し交流を図っている。	行政や自治会、地域に住む職員から情報収集を行っており、地域との交流に繋がっている。また、夕涼み会や敬老会などホームの行事に地域住民の参加があり、関係の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域貢献的活動は行っていないが、研修等により職員のレベルアップを図っているところであり、今後そんな活動が出来るよう努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の入居者の状況・行事の報告等毎回行なっている。新しい入居者の方や入居申し込みがあった方の生活歴や色々な情報も意見を下さり参考にしている。	毎回委員の参加が多く、ホームの現状報告や課題について改善策を提案されるなど意見交換が行われているが、会議内容を全職員に周知できていない。	議事録を回覧するなど、全職員に会議内容を周知することで、サービスの向上へ繋げていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営委員会に行政担当者が毎回出席されている為ホームでの情報は共有できている。又地域包括ケア会議にも出来る限り出席するようにしている。	行政担当者は、運営推進会議参加や日々の訪問で、ホームの現状を理解し、行事にも参加するなど協力的であり、気兼ねなく相談できる関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在4点柵の方が1名おられ2ヶ月に1回拘束委員会を行い見直しを行なっている。又研修で学んできた事を拘束委員会の中で報告を行なっている。	拘束の弊害について研修会やミーティングで正しく理解することに努めている。身体の安全を優先し拘束を行う場合も、利用者の対応困難行動の原因理解に努めるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近ニュースで虐待が多く取り沙汰されておりその都度ミーティングで話題にし意見を出し合っている。又研修で学んできた事をミーティングで報告を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少ない為入居者の方の後見人の方に話を聞いたりわからない事は教えてもらったりしている。又後見人を利用している入居者の方の身元引受人が職員でいる為色々話を聞くことができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や面接時、又は入居時に説明を行い納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には居室へ行き状況報告を行う。その中で意見を聞きだし状況に応じて運営委員会で報告を行い施設長にも報告を行なっている。	来訪時や毎月のホーム便りで、個別に状況報告を行い、家族から意見や要望が出しやすいように努めている。また、運営推進会議に家族も参加して意見をもらい改善につなげるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの運営や業務に関する、意見や提案については、ミーティング時に限らず、電話等方法を問わず、耳を傾けるよう心がけている。	管理者と職員は話しやすい関係作りに努めており、出された意見や要望は管理者から代表者へ伝達され意見の反映に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務意欲の向上のため、定期昇給はもとより、特別昇給等の制度も取り入れている。また、年に一度の職員旅行時には旅費の一部を助成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を月に1度計画的に行っており、施設外の研修にも出来る限り参加するように心がけている。また、資格取得については、休みの調整等を行い、資格によっては旅費等の支給も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会等に参加しているが、事業所相互の訪問等は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や本人・担当ケアマネジャー・家族等から情報を収集し要望等を探っている。時間がある時にはそばに寄り添い世間話等を行い関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に色々話を聞き不安事等を聞きだしている。又電話やお便り、面会に来られた際に現状報告を行い少しずつ関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は他のサービスを必要としている入居者はいない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何が出来るかを見つけ出しその人の役目を決め行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が帰省された時には外出・外泊を積極的にお願いし了承していただいている。2週間位毎日外出される入居者もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診を可能な限り出身地区のバスが来る日に合わせ調整を行っている。知り合いの方や親戚の方が何人も来られ話をされている。	それぞれの生活歴や家族からの聞き取りで馴染みの関係を把握するよう取り組んでいる。また、病院受診の日を出身地の乗り合いバスの運行日に合わせるなど、知り合いと会えるように工夫して関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	廊下にソファを置き井戸端会議の出来る場所を設けている。2～3人でよく話をされている。また、歩行のゆっくりな人に対して一緒に連れて行ってもらうようお願いすると快く応じて下さる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し施設に行かれた方に関しては、遊びに行った際に声掛けを行い現状を聞く等対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望があった際にはノートに記載し職員全員で共有している。困難な事に関しては話し合いを行い出来る限り一人ひとりの思いが可能になるように努めている。	日常のケアの中で、利用者との意思の疎通を図り意向や要望を聞き取り、意向把握が困難な場合は、表情や仕草を観察し、ケアに反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規で入られた方に関しては情報提供書を回覧しチェックを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠時間や排泄・不穏等を24時間表に記載。毎日の流れがわかりやすくなっている。また、日誌にも細かく記載を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会において各々の担当者から要望や本人の意向を出している。また、面会時や電話等において家族の意見を聞き反映している。	担当者を中心に記録や家族の意見から要望や意向を把握し反映はさせているが、職員全員が日々のケアの中で介護計画を確認できる仕組みに至っていない。	日々のケアの中で介護計画が活かされるよう職員全員がいつでも確認できる取組に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は日誌に記載している。睡眠時間や排泄・不穏等は24時間表に記載し一目瞭然にわかるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方がいらっしゃる為ご家族からの要望があれば出来る限り行なうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日用品等欲しいものは担当者に伝え、買い物支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医にて対応しているが、病院が遠方で家族対応が困難な場合には紹介状をもらい近くの病院にて対応している。	ほとんどの利用者が町内の病院がかかりつけ医となっており、受診には職員が対応し、情報を伝え病院との連携に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護師がいない為困り事や緊急時は日之影町立病院の看護師に電話にて指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行ったり直接主治医に聞き状況を確認している。また、緊急時の対応や夜間帯の対応等主治医に相談を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族に説明し納得をいただき同一法人の特別養護老人ホームの入居をお願いしている。また、急変時の対応も日之影町立病院院長から協力を頂ける様になっている。	重度化した場合について、入居時に家族に説明し納得を得ている。急変時には、医師と連携して対応するなどの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練等は行なっていないがその都度日之影町立病院へ電話し看護師の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練をおこなっている。全員が認知症の為体で覚えていただく為いつも出入り口を1カ所に決めている。日之影町が実施した地区の災害防災訓練にも参加した。	ホームでの定期的な避難訓練以外にも地区の避難訓練へ参加している。有事の混乱を踏まえ利用者が体で覚えることに重点を置いた訓練を重ねるよう取り組んでいる。食品備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室や廊下等二人になれる環境で話をしたりしている。また、耳の聞こえにくい方には聞こえるほうの耳を確認し声のトーンに注意をしながら行なっている。	言葉遣いや声のトーンに配慮し、また居室の扉を必ず閉めるなどしてプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業をしながら何気なく尋ねたり世間話をする中で色々な思いが出てきたりする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそっての支援は中々出来ないが、状態や状況に合わせてその日の流れを変えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に外部から散髪にきていただき、意思疎通の出来る方は要望をきいている。又敬老会にはお化粧して参加される。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえを毎日していただいている。だんご汁の作り方に花が咲き先頭にたち作られた。	利用者の好みのメニューを用意したり、利用者と職員と一緒に調理するなどして食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方に関してはジュース等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。不十分な方もいらっしゃる為入歯洗浄剤を浸ける日には介助を行い清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を24時間表にて記載し把握している。尿取りパットも本人の状態にあわせ種類を変えたりしている。	声掛けを工夫しながらペースに合わせたトイレ介助を行うなどの取組を行っている。また、病院に入院中はおむつで対応していた方を布パンツに改善するなどに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味な方に関しては朝食時にヨーグルトの提供を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	意思疎通が出来る方には時間の希望を尋ねて行なっている。また、本人の状態に合わせて入浴者を決めている。	週3日の入浴日を設定しており、利用者のそれぞれの希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は本人次第である。日中も本人の体調や状態に応じて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からいただく内服の表に目をとすようにしている。変更時には24時間表・日誌・ノートに記載しサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後からは洗濯物たたみや野菜の下ごしらえがある為時間をみて出てこられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブを行なっており希望があれば散歩にも出掛けている。また遠方の家族が帰省された時には外出・外泊をされている。	利用者の希望に応じホーム周辺の散歩を楽しんでもらったり、月に4、5回は遠方へドライブに行くなど外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時に売店でお菓子を買われ車中で他の方や職員に配ったりホームに帰り居室で食べたりされ喜んでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればしている。また、毎週月曜日の9時頃にかけてこられる家族もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節の風物詩の製作や習字を行い作品を廊下やホールに展示している。	共用空間は各所にソファーがあり好きなところで休めたり、季節を感じる掲示物や生花が飾られてある。また、電動の手指消毒器が設置されており利用者も手軽に清潔保持ができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係をみて席を決めている為ソファで過ごしたり席に座り、気のあった方と話をしたりして過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規で入居された方に関してはベッドの向きを聞き対応。又面会に来られた際に写真を飾ったり家計図を貼ったりされていた。	居室への持ち込みは制限せず、それぞれに馴染みの物や写真が置かれていて、その人らしく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別ケアの時間を設け「できること」を行なってもらっている。		

